

【**展覧会**】

“知覚”をテーマに近江八幡旧市街と安土の4会場で開催する芸術祭
ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭 「ちかくのまち」



知覚にあるこのまちで、アートとであう。

「ちかくのまち」は、近江八幡という“町”を舞台に、アーティストや地域の住民、商店などが参加し、みんなで作る芸術祭です。

障害のある人が芸術文化を鑑賞することや創作することへの支援を、地域の人たちとともに通じて、“ボーダレス・エリア近江八幡”を形成することを目的としています。

視覚に障害がある人の鑑賞をサポートするツールを用意するほか、様々な人が作品を深く味わうための関連イベントを実施します。

私たちの“知覚”を刺激してくれるアートや出来事との出会いが待っています。

会期：2020年9月19日(土)~11月23日(月・祝)

場所：ボーダレス・アートミュージアム NO-MA、奥村家住宅、B&G 海洋センター、よしきりの池

【みどころ】

■ **近江八幡を舞台に、10組の作家によるアート作品を展示**

写真や絵画、陶器のほか、屋外展示の巨大な立体造形など、様々なジャンルのアート作品との出会いをお楽しみいただけます。

■ **目の見えない、見えにくい人たちと一緒に芸術祭を楽しむためのプログラムを実施**

展示や触図などで、アート作品を「見る」以外の方法で楽しめるようにサポートします。出展者平野智之さんの作品世界とリンクしたぬいぐるみ型の音声ガイド「美保さんガイド」にも注目です。

■ **地域の商店やサポーターと一緒に作る芸術祭**

芸術祭の運営や関連するプログラムには、地域住民をはじめとするたくさんのサポーターが参画しています。さらに地域の商店も本芸術祭と連動し、バリアフリーメニュー（点字メニューや音声メニュー、写真やルビ付きのメニュー）を設置します。町と人がつながり合い、みんなで芸術祭を作っています。

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）

担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp

展覧会概要

タイトル：“ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクト

ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭「ちかくのまち」

会 期：2020年9月19日(土)～11月23日(月・祝)

会 場：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）・奥村家住宅（近江八幡市永原町上8）・近江八幡安土 B&G 海洋センター（近江八幡市安土町下豊浦5428）・よしきりの池（B&G 海洋センターの隣）

開催時間：11：00～17：00 休 館 日：月曜日（祝日の場合は翌平日）

観覧チケット：一般600円（550円） 高大生550円（500円）

※「近江八幡市安土 B&G 海洋センター」と「よしきりの池」は無料。中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料。（ ）内は20名以上の団体料金。

チケット販売場所：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（会期中）

無料開館：関西文化の日 11月14日（土）、15日（日）

主 催：アール・ブリュット魅力発信事業実行委員会

[構成団体]ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（社会福祉法人グロー [GLOW]）、

滋賀県、滋賀県立近代美術館、近江八幡市、一般社団法人近江八幡観光物産協会、

国立大学法人滋賀大学、NPO 法人はれたりくもったり、滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会

後 援：滋賀県教育委員会、近江八幡市教育委員会

協 力：社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 救護施設松山荘、Gallery PARC、社会福祉法人湖北会 湖北まこも、NPO 法人しが盲ろう者友の会、社会福祉法人しみんふくし滋賀、西の湖ヨシ灯り展実行委員会、琵琶湖干拓小中之湖土地改良区、社会福祉法人みぬま福祉会 工房集、NPO 法人 La Mano クラフト工房 La Mano

助 成 令和2年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動事業

———プレスの皆様を対象とした内覧会のお知らせ———

本芸術祭の最初の平日開催となる9月24日（木）に、プレスの皆様を対象とした内覧会を実施します。NO-MA、奥村家住宅の2会場を巡り、展示の内容や取り組みについて担当学芸員から説明いたします（そのほかの会場については資料をお渡しいたします）。

日時：9月24日（木）

時間：13：30～14：30

集合：ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

※内覧会に参加される方は、事前に担当までご連絡ください。新型コロナウイルス感染対策としてNO-MAでは入場者数の上限を設けています。参加者多数の場合は、2班に分けるなどの対策を講じてご案内いたします。ご来場の際は、マスクの着用、手指の消毒にご協力ください。

“ボーダレス・エリア近江八幡”をみんなで作るプロジェクトについて

NO-MAがある近江八幡を拠点に誰もが交流できる場を形成するための取り組みです。アートを鑑賞することや創作することの楽しさを地域の方々と共有することを通して、誰もが芸術文化に触れることができる環境を作り、地域全体をつなげることを目指しています。

展覧会をより楽しくする取り組み

一緒に展覧会を作りあげるサポーターたち

「ちかくのまち」では、地域の方など様々な皆さんにサポーターとしてご参加いただき、一緒に芸術祭を作り上げていきます。活動は以下の3種類です。サポーターと来場者との交流に加えて、各種サポーター同士の交流も、本芸術祭に参加する魅力となっています。

- 会場ボランティア 日々の会場運営に携わり、来場者と作品をあたたく繋ぐ
- NO-MA記者クラブ 自らが記者となって作品や町の魅力をやさしく伝える
- エデュケーションサポーター アートと出会い、理解を深めるための場を楽しく企画する

アクセシビリティの充実

本展では、障害の有無に関わらず、誰もが安心して芸術祭を楽しんでいただけるようアクセシビリティを充実させることに取り組んでいます。展覧会も近江八幡のまちもみんなで楽しみます。

■鑑賞サポートツール

盲ろうの人や視覚に障害がある人が作品の魅力を味わえるよう、視覚以外の情報で楽しめる鑑賞サポートツールをご用意いたします。

■美保さんガイド

平野智之さんが描く「美保さん」が昨年に続き今年も音声ガイドとして登場。展示や町の魅力を語ってくれます。

■安心してまちをめぐるNO-MA周辺マップ

点字メニューなどがあるお店や多目的トイレ、休憩所に関する情報を掲載した、安心して町歩きできるマップです。NO-MAで配布します。

■バリアフリーメニュー

点字のメニュー、音声で聞けるメニュー、ふりがなや写真があるメニューを地域の10店舗でご利用いただけます。

ばったり床几プロジェクト

昨年に引き続き、地域企業等の協賛により、会場近隣の町中にみんなの憩いの場「ばったり床几」を設置します。かつては家先に売り物を並べていた床几を再現し、いろんな人たちの交流の場としてお楽しみいただきます。

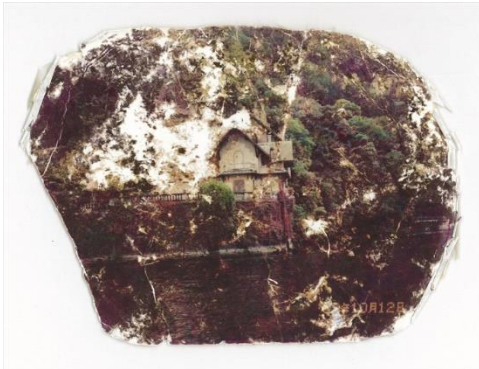


4つの会場と出展者（広報画像用）

■ボーダレス・アートミュージアムNO-MA （近江八幡市永原町上16）



杉浦 篤 Sugiura Atsushi 1970- / 埼玉県在住 / 写真



杉浦 篤 Untitled 1992-

家族や友人たちで行った旅先での風景や記念写真。杉浦本人が撮ったものもあるが、家族や施設職員が撮ったものも多い。杉浦は、思い入れのあるそれらの写真を20年以上もの時間、触り続けている。お菓子の缶のようなものの中に入った大量の写真をかき混ぜたり、取り出して触れたり、足元に落ちたりする中で、写真はしだいに擦り切れ、折れ跡が付き、角が取れ丸まっていく。イメージは杉浦の行為を通して、長い時間をかけて古色を帯び、やがて物質へと変化していく。

ヤマガミユキヒロ Yamagami Yukihiro 1976- / 京都府在住 / ミクストメディア

ヤマガミは、「キャンバス・プロジェクション」という独自の手法による作品を展開している。その作品は、綿密なリサーチにより選び出したロケーションから、建築や構造物を鉛筆で丹念に描画した風景画に、同一視点から撮影した風景（映像）をプロジェクターにより投影するものである。幾度も取材を重ねて撮影した朝昼夜や春夏秋冬の光と色彩の変化、流れる雲や行き交う人々などの「時の流れ」が重ねられたとき、ある一瞬を描きとどめたモノクロの世界にうつろう時間が流れはじめる。



ヤマガミユキヒロ 《location hunting》 2014

武友 義樹 × 福留 麻里 Taketomo Yoshiki × Fukutome Mari / 映像、パフォーマンス

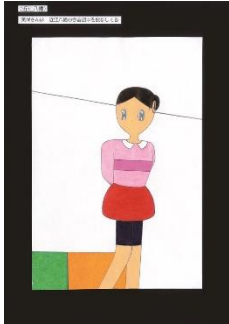
武友 義樹 1963- / 滋賀県在住

福留 麻里 1979- / 山口県在住

福祉施設でヒモと一緒に生活し、自分のためにヒモを振り続ける武友と、携帯をタップする、服を着替えるなど日常の動作から踊りの始まりを見つける福留。日常から生まれた行為を楽しむ二人が、生活環境や立場の違いを越えてコラボレーションを行う。日常から行為が生まれることの普遍性や、その始まりに立ち会うようなパフォーマンスと映像を公開する。



武友義樹[ヒモを振る様子] 2014

平野 智之 Hirano Tomoyuki 1987- / 東京都在住 / 絵画、立体、映像


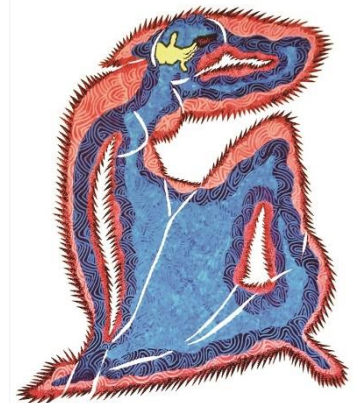
平野智之《美保さんシリーズ番外編》2019

平野は、「美保さんシリーズ」「もえ子さんシリーズ」など、実在する人物をモデルにした物語を制作している。「字幕」と呼ばれるテキスト、シンプルな線、大胆な構図で構成された作品は、独自のリズムを帯びており、観る者に親しみを感じさせる。本展では、平野による《美保さんシリーズ》を中軸とした、取り組み（美保さんガイドや作品の立体化など）を紹介する。

■奥村家住宅（近江八幡市永原町上 8）

鮎 万里絵 × 谷澤 紗和子 Suzuki Marie × Tanizawa Sawako / 絵画、切り絵
鮎 万里絵 1979- / 長野県在住
谷澤 紗和子 1982- / 京都府在住

強烈な色彩と図像が織りなす緻密な世界を描く鮎と、「妄想力の拡張」をテーマに、原始宗教や土着的な寓話などを参照し、切り紙、陶などで、インスタレーションを展開する谷澤によるコラボレーションを紹介する。文通や作品を送り合うプロセスを経て生まれた、共同作品を展示する。



鮎万里絵×谷澤紗和子《青と赤ととげとげのヌード》 2020

ドゥイ・プトロ×ナワ・トゥンガル Dwi Putro × Nawa Tunggal / 映像
ドゥイ・プトロ 1963- / インドネシア・ジョグジャカルタ在住
ナワ・トゥンガル 1974- / インドネシア・ジャカルタ在住

 ドゥイ・プトロ×ナワ・トゥンガル
 《Teaterikal Lukisan "Ruwat"》 2020

大胆な構図で、インドネシアの伝統的な影絵芝居「ワヤン・クリ」に登場する人形や女性像を描くドゥイ・プトロと、兄であるドゥイ・プトロの制作を支えるとともに、インドネシア アール・ブリュット ファンデーションを仲間とともに立ち上げ、発信しているナワ・トゥンガル。本展では、インドネシアが COVID-19 パンデミックから解放されることへの希望や祈りをテーマとした兄弟によるコラボレーション作品を展示する。

米田 文 Yoneda Bun / 1975- / 石川県在住 立体

動物や植物などを題材に、思わず手に取って見入ってしまうようなユニークな作風で活躍する米田。《うずまきさん》は、1998年頃から約3年という短い期間だけ作り続けた作品群である。作品を構成する小さな「うず」は、まるで無限に増えてくようで、かつ引っ付きあい、一つの大きな形を成している。



米田文 《赤》2000

**■近江八幡市安土 B&G 海洋センター
(近江八幡市安土町下豊浦 5428)**

小西 節雄 Konishi Setsuo / 1947- / 滋賀県在住 / 立体


小西節雄 《カカシ》2014

定年退職後、カカシたちを作り始める。はじめはスイカを食い荒らすカラス除けであったが、そのうちにカカシの制作自体に没頭していった。大量のカカシが様々なポーズで立つ自身の畑のユーモラスな光景は、通行人を驚かせ、笑わせ続けている。骨は木材とボルトで、肉は緩衝材で作られ、腰と肩の部分は楕円形に切った薄い板を配し、他は5~10センチ角の木材で首、背骨、手足を作る。関節にあたる部分はボルトで繋ぎ、人間と同じ動きが出来るようになっている。

■よしきりの池
(B&G 海洋センターの隣)



久保 寛子 Kubo Hiroko / 1987- / 広島県在住

久保寛子は、先史芸術や民族芸術、文化人類学の学説を主なインスピレーションの源とし、近年は生活に身近な素材を用いて農耕や偶像をテーマに作品制作を行っている。古くからある文化に、現代で使われている素材、道具、暮らしを再構成して、新たな形として息を吹き込む。



久保寛子《土頭》2016

坂本 三次郎 × 椎原 保 Sakamoto Sanjiro × Shiihara Tamotsu

坂本三次郎 1921-2016 / 岩手県出身 / 写真、インスタレーション

椎原 保 1952- / 京都府在住 / 写真、インスタレーション

坂本は、材料を施設周辺から拾い集めてきては並べて置くというこの行為を、70歳頃からはじめ、亡くなる2016年まで続けた。坂本によるこの行為は、あたかも、子供が、ガラクタや人形などに向かって、親しみを込めて向き合うかのようなのである。本展では日常的に得られるような感覚を題材にその場でしか感じることはできない独自のインスタレーションを展開する椎原が、坂本の世界観に寄り添い、展示する場に息を吹き込む。



坂本三次郎 Untitled 2011-2012

武友 義樹 Taketomo Yoshiki / 1963- / 滋賀県在住



武友義樹《壺》2009

ヒモと一緒に生活し、自分のためにヒモを振り続ける武友は、2008年頃まで重量感のある壺を制作していた。初期の頃は、こじんまりとした壺であったが、月日を重ねるうちに徐々に巨大になっていったという。ヒモの表現も粘土による制作も、表現方法は違えど、武友が内に秘めているエネルギーが形になっていると思わずにはいられない迫力がある。

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)
 担当: 山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地の 2
 TEL: 0748-46-8100 FAX: 0748-46-8228 MAIL: kikaku@glow.or.jp

展覧会関連イベント

新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症の状況により、イベントの内容が変更・中止となる場合があります。イベントの最新情報は、随時、NO-MAホームページ内の「イベント情報」にアップします。

(当館での新型コロナウイルス対策は後述します)

<p>パフォーマンスプログラム</p> <p>幼少から毎日ヒモを振り続けてきた武友義樹と、日常行為に動きの始まりを見つけるダンサー福留麻里のコラボレーションから生まれた作品。会場の西之湖園地を巡り、様々な場所・風景の中でパフォーマンスを観て回ります。</p> <p>西の湖ほとりに教わるツアー</p> <p>10月17日(土) 16:00-17:00 ※雨天延期 予備日 10月18日(日) 会場：湖岸緑地西之湖園地(近江八幡市北之庄町) (予定) 出演者：福留麻里(ダンサー、本展出展者) 定員：15名(要予約) 参加費：無料 ※武友義樹は出演しません。あらかじめご了承ください。</p>	<p>障害のある人と作品を体感する鑑賞会</p> <p>アートの言葉にしにくい部分を様々な鑑賞方法で味わったり、それぞれの感じ方を共有したりします。“ランチと芸術鑑賞会”では、NO-MA近くのバリアフリーメニューがあるお店で食事を楽しみながら、まちの魅力にも触れます。</p> <p>盲ろうの人、視覚障害の人と楽しむ“ランチと芸術鑑賞会”</p> <p>9月30日(水) 11:30-14:00 10月9日(金) 11:30-14:00 11月9日(月) 11:30-14:00 案内人：横井悠(NO-MA主任学芸員) 会場：NO-MA 定員：各10名(要予約) 対象：目が見えない人、見えにくい人、耳が聞こえない人、聞こえにくい人、この鑑賞会に関心がある人</p> <p>アートをきっかけに いろんな感じ方をシェアしよう!</p> <p>10月17日(土) 14:00-15:00【安土コース】 ※雨天延期 予備日 10月18日(日) 11月22日(日) 13:45-15:30【近江八幡コース】 会場：NO-MA他 定員：各10名(要予約) 案内人：横井悠(NO-MA主任学芸員) 対象者：発達障害の人、発達障害の傾向があると思う人、長い説明を聞くのが苦手な人、会で意見を言うのを負担に感じる人、この鑑賞会に関心がある人</p>
---	---

トークセッション

「アート」、「障害」、「アクセシビリティ」など本芸術祭に関するテーマを巡って、一緒に「あだこうだ」と語り合うアカデミーを開校します。

ボーダレス・エリア近江八幡アカデミー

第1回 9月27日(日) 13:00-16:00

一限目 ボーダレスを楽しもう、「ちかくのまち」を観光案内

先生：横井悠（NO-MA主任学芸員） / 山田創（NO-MA学芸員）

二限目 ちかくのまちの歩き方

先生：佐倉武（社福グロー[GLOW]法人本部企画事業部主任自立生活支援員）

石田瞳（社福グロー[GLOW]法人本部企画事業部自立生活支援員）

三限目 ボーダレスの生ずるところ

先生：今井祝雄（美術家・成安造形大学名誉教授）

田端一恵（社福グロー[GLOW]法人本部企画事業部長）

第2回 10月25日（日）13:00-16:00

一限目 障害のある人と作品を作る ～武友義樹×福留麻里の共働

先生：福留麻里（ダンサー、本展出展者） / 西川賢司（社福グロー[GLOW]法人本部企画事業部文化芸術推進課長）

二限目 ちかくのまちづくり

先生：林ケイタ（株式会社デンキトンボ代表） / 安川雄基（合同会社アトリエカフエ代表）

/横井悠（NO-MA主任学芸員）

三限目 ザ・ノンテーマ・ディスカッション！（その場にいるみんなでディスカッションします）

会場：近江八幡市文化会館（近江八幡市出町 366）

当日の様子はYouTubeで生配信します。ご視聴はこちらから→<http://www.no-ma.jp/?p=21459>

ぐるり町歩き会

ゲストや参加者同士でおしゃべりしたり寄り道したり。NO-MAや近江八幡旧市街地をゆっくりめぐる小さなツアーです。

『無視覚流』でめぐる！ぐるり町歩き会

10月18日（日）

※雨天延期 予備日 2020年10月24日（土）

一回目 10:30-12:30 二回目 14:00-16:00

会場：NO-MA近隣 近江八幡旧市街地各所

講師：広瀬浩二郎（国立民族学博物館 グローバル現象研究部准教授）

ヒラトモさんとめぐる！ぐるり町歩き会

11月1日（日） 10:30-12:00

※雨天の場合は中止することもあります。

会場：NO-MA近隣 近江八幡旧市街地各所

講師：平野智之（本展出展者）

朝比奈益代（NPO法人 La Mano

クラフト工房 La Mano）

エデュケーションプログラム

本芸術祭で学びや交流の場の企画を担うエデュケーションサポーターが、「ちかくのまち」のプログラムとして、アートと楽しく出会えるイベントを立ち上げます。なにをやるかはこれから！

なにをやるかはこれから！みんなで作る学び・

交流の場イベント

11月21日（土） 13:30～

ファシリテーター：エデュケーションサポーター

会場：調整中 定員：調整中 参加費：無料

※10月末にNO-MAホームページで情報公開します。

同時開催企画「西の湖 ヨシ灯り展」

ヨシを材料とした様々な造形作品が飾られ、夜はやわらかな光と共に西の湖を彩ります。

日時：9月26日（土）13:00-21:00、27日（日）10:00-20:00 ※点灯は18:00-

会場：よしきりの池・安土 B&G 海洋センター一帯（近江八幡市安土町下豊浦江ノ島地先）

イベントの詳細こちら [ヨシ灯り実行委員会事務局](#) Tel：0748-46-2346

本芸術祭における新型コロナウイルス対応について

来場される方には、以下の対応をお願いします。

- ① 体調不良（例：発熱・咳・咽頭痛・味覚障害などの症状）の方はご来場をご遠慮いただきます。
- ② マスク着用、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒をお願いします。
- ③ 観覧中は、他の人との距離を確保してください。
（できるだけ2m以上／障害のある方等の誘導、介助を行う場合は除きます）
- ④ 来場者が多い場合は、入場を制限させていただくことがあります。
- ⑤ 大きな声での会話はご遠慮いただきます。

主催者として、以下の新型コロナウイルス対策を徹底します。

- ・ スタッフは毎日、検温・体調確認を行い健康管理に努めます。
- ・ スタッフはマスク着用の上で案内いたします。また、こまめな手洗いを行います。
- ・ 館内のドア、手すり、トイレなど、手を触れられる箇所の消毒を強化します。
- ・ 館内は密閉した空間にならないよう、定期的に換気を行います。

ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭「ちかくのまち」

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛

FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご確認ください。

- ① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名を必ず表記ください。
- ② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- ③ 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌（紙）、DVD、CD等をお送りください。

媒体名：『 _____ 』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー

ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日： _____

御社名： _____

ご担当者名： _____

Eメールアドレス： _____

@ _____

(〒 _____)

ご住所： _____

お電話番号： _____

FAX : _____

ご希望の図版番号に✓をおつけください。

<input type="checkbox"/>	①杉浦 篤	Untitled 1992年-
<input type="checkbox"/>	②ヤマガミユキヒロ	《location hunting》2014年
<input type="checkbox"/>	③武友 義樹	[ヒモを振る様子] 2014年
<input type="checkbox"/>	④平野 智之	《美保さんシリーズ番外編》2019年
<input type="checkbox"/>	⑤鮎 万里絵×谷澤 紗和子	《青と赤ととげとげのヌード》2020年
<input type="checkbox"/>	⑥米田 文	《赤》2000年
<input type="checkbox"/>	⑦ドゥイ・プトロ×ナワ・トゥンガル	《Teaterikal Lukisan "Ruwat"》2020年
<input type="checkbox"/>	⑧小西 節雄	《カカシ》2014年
<input type="checkbox"/>	⑨久保 寛子	《土頭》2016年
<input type="checkbox"/>	⑩坂本 三次郎	Untitled 2011-2012年
<input type="checkbox"/>	⑪武友 義樹	《壺》2009年

【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人本部企画事業部 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：山田・山口 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837番地の2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : kikaku@glow.or.jp